

医学学位プログラム関係資料

(1) 改組前の疾患制御医学専攻、生命システム医学専攻における入学者数の推移（直近5年間：H26-H30）

注）黄色のセルは引用箇所を示す。

①人間総合科学研究科（一貫制博士課程）疾患制御医学専攻

出身区分／入学年度	H26	H27	H28	H29	H30	総計	平均
筑波大学医学類	28	15	16	20	27	106	21
筑波大学医学類以外	6	6	3	10	4	29	6
他大学医学部	21	23	14	23	18	99	20
他大学医学部以外（修士課程を含む）	11	6	6	6	2	31	6
海外大学	4	5	6	9	11	35	7
総計	70	55	45	68	62	300	60

医学部出身者計	49	38	30	43	45	205	41
医学部以外計（海外大学は除く）	17	12	9	16	6	95	12

留学生	(4)	(6)	(4)	(11)	(10)	(35)	(7)
-----	-----	-----	-----	------	------	------	-----

②人間総合科学研究科（一貫制博士課程）生命システム医学専攻

出身区分／入学年度	H26	H27	H28	H29	H30	総計	平均
筑波大学医学類	3	3	4	2	1	13	3
筑波大学医学類以外	5	9	9	7	11	41	8
他大学医学部	2	2	4	2	3	13	3
他大学医学部以外（修士課程を含む）	4	9	6	1	6	26	5
海外大学	10	6	8	10	7	41	8
総計	24	29	31	22	28	134	27

医学部出身者計	5	5	8	4	4	26	5
医学部以外計（海外大学は除く）	9	18	15	8	17	108	13

留学生	(12)	(12)	(15)	(12)	(10)	(61)	(12)
-----	------	------	------	------	------	------	------

■上記2専攻の合計

出身区分	H26	H27	H28	H29	H30	総計	平均
筑波大学医学類	31	18	20	22	28	119	24
筑波大学医学類以外	11	15	12	17	15	70	14
他大学医学部	23	25	18	25	21	112	22
他大学医学部以外（修士課程を含む）	15	15	12	7	8	57	11
海外大学	14	11	14	19	18	76	15
総計	94	84	76	90	90	434	87

医学部出身者計	54	43	38	47	49	231	46
医学部以外計（海外大学は除く）	26	30	24	24	23	203	25

留学生	(16)	(18)	(19)	(23)	(20)	(96)	(19)
入学者に占める留学生の割合	17%	21%	25%	26%	22%	22%	22%

バル教育院が開設するヒューマンバイオロジー学位プログラム及びライフイノベーション学位プログラムを履修する学生は含まれない。

【出典】筑波大学教育推進部作成

(2) 筑波大学で博士（医学）の学位を取得した修了生の進路の状況

注) 黄色のセルは引用箇所を示す。

集計対象：直近5年間（H26-H30）に筑波大学で博士（医学）の学位を取得した修了生（313名）のうち、2019年4月現在現職を追跡できている246名について集計（生命システム医学専攻、疾患制御医学専攻の2専攻が対象）

①生命システム医学専攻

学位取得年	H26	H27	H28	H29	H30	計	%
大学教員	4	5	4	9	2	24	37%
病院等医師・医療専門職（大学教員除く）	3	2	1	2	5	13	20%
研究機関・企業における研究開発職（博士研究員を含む）	5	5	5	6	5	26	40%
その他の職	0	0	1	1	0	2	3%
計	12	12	11	18	12	65	

(内訳) 医師・医療関連資格有り	3	5	4	5	4	21	32%
(内訳) 医師・医療関連資格無し ※不明含む	9	7	7	13	8	44	68%

②疾患制御医学専攻

学位取得年	H26	H27	H28	H29	H30	計	%
大学教員	18	13	10	8	6	55	30%
病院等医師・医療専門職（大学教員除く）	17	11	23	21	26	98	54%
研究機関・企業における研究開発職（博士研究員を含む）	4	7	4	4	6	25	14%
その他	0	1	0	2	0	3	2%
計	39	32	37	35	38	181	

(内訳) 医師・医療関連資格有り	33	26	35	31	30	155	86%
(内訳) 医師・医療関連資格無し ※不明含む	6	6	2	4	8	26	14%

■上記2専攻の合算

学位取得年	H26	H27	H28	H29	H30	計	%
大学教員	22	18	14	17	8	79	32%
病院等医師・医療専門職（大学教員除く）	20	13	24	23	31	111	45%
研究機関・企業における研究開発職（博士研究員を含む）	9	12	9	10	11	51	21%
その他	0	1	1	3	0	5	2%
計	51	44	48	53	50	246	

(内訳) 医師・医療関連資格有り	36	31	39	36	34	176	72%
(内訳) 医師・医療関連資格無し ※不明含む	15	13	9	17	16	70	28%

注) 黄色のセルは引用箇所を示す。

【出典】筑波大学疾患制御医学専攻及び生命システム医学専攻作成

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	筑波大学	整理番号	C01
プログラム名称	ヒューマンバイオロジー学位プログラム		
プログラム責任者	清水 諭	プログラムコーディネーター	渋谷 彰

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

〔総括評価〕

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

〔コメント〕

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、日本人学生及び留学生に対し、非常に行き届いた学習及び生活の指導を組織的・計画的に実現し、これを学生寮（インターナショナルドミトリー）における学生相互の協力、学生とメンターの相互交流等を通じて実質化するなど、学際性、国際性に富む、計画を超えた非常に優れた取組である。また、多数の海外拠点との協力、留学生の高い比率を活かし、海外ラボローテーションによる複数回の海外アカデミアでの研究やインターンシップを通じてグローバル人材の育成が実現しており、このような環境下で、俯瞰力や独創性を身に着けた学生が育ったと認められ、高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、第一期の修了者が海外のアカデミアに羽ばたき、第二期では、企業への就職も半数に及ぶ見込みであるなど、本プログラムが意図した博士人材の多様な進路とキャリアパスが実現されており、学生各自の専門分野における研究でも優れた成果をあげているなど、博士課程教育リーディングプログラムのカリキュラムの成果として高く評価できる。

事業の定着・発展については、既に事業の実施中に全学を挙げた組織改革として、「グローバル教育院」を設置し、学長のリーダーシップの下に、全学的な大学院改革が実現しつつある。支援期間終了後は、筑波大学の全ての博士課程教育リーディングプログラムを含む複数の学位プログラムが1つの制度の下に収められ、本プログラム特有のグローバルリーダー養成という性質が薄れる懸念はあるものの、学生への経済的支援については、給付額は減少するが、大学の独自資金により継続することが約束されており、第3期中期目標においても、博士課程教育リーディングプログラムの実施の経験と反省点に基づく継続的な改革が掲げられており、定着・発展の方向が明示されている点等は高く評価できる。また、グローバルリーダーの輩出について、特に、留学生と日本人学生の比率の改善や民間企業への進出等については、より一層の努力が必要であるが、事業実施の成果が将来においても維持され、大学全体の発展に継続的に反映されることを期待する。